

第91回総合科学技術会議議事録（案）

1. 日時 平成22年 7月16日（金）16:30～16:58

2. 場所 総理官邸 4階大会議室

3. 出席者

議長	菅 直人	内閣総理大臣
議員	仙谷 由人	内閣官房長官
同	川端 達夫	科学技術政策担当大臣・文部科学大臣
同	直嶋 正行	経済産業大臣
同	相澤 益男	常勤（元東京工業大学学長）
同	本庶 佑	常勤（京都大学客員教授）
同	奥村 直樹	常勤（元新日本製鐵（株）代表取締役副社長、技術開発本部長）
同	白石 隆	常勤（元政策研究大学院大学教授・副学長）
同	今榮 東洋子	非常勤（名古屋大学名誉教授）
同	青木 玲子	非常勤（一橋大学経済研究所教授）
同	中鉢 良治	非常勤（ソニー株式会社取締役代表執行役副会長）
臨時議員	荒井 聡	国家戦略担当大臣
同	小沢 鋭仁	環境大臣
同	山田 正彦	農林水産大臣（代理 郡司 彰 副大臣）
	平岡 秀夫	科学技術政策担当副大臣・国家戦略担当副大臣
	中川 正春	文部科学副大臣
	大串 博志	財務大臣政務官

4. 議題

- （1）平成23年度の科学・技術に関する予算等の資源配分の方針（決定・意見具申）
- （2）科学・技術重要施策アクション・プランについて（報告）
- （3）第4期科学技術基本計画策定に向けた検討状況（報告）

- (4) 国家的に重要な研究開発の評価 (決定、通知)
- (5) 最先端研究開発支援プログラムの加速・強化に関する対象課題及び配分額について (決定)
- (6) 最先端研究基盤事業に係る事業計画の決定について (報告)
- (7) その他

5 . 配布資料

- 資料 1 - 1 平成23年度の科学・技術に関する予算等の資源配分の方針 (案) (概要)
- 資料 1 - 2 平成23年度の科学・技術に関する予算等の配分方針の方針 (案)
- 資料 2 - 1 科学・技術重要施策アクション・プラン (概要)
- 資料 2 - 2 科学・技術重要施策アクション・プラン
- 資料 3 - 1 科学技術基本政策策定の基本方針 (概要)
- 資料 3 - 2 科学技術基本政策策定の基本方針
- 資料 4 - 1 国家的に重要な研究開発の評価 (案) 「ゲノムネットワークプロジェクト」の事後評価結果 (概要)
- 資料 4 - 2 国家的に重要な研究開発の評価 (案) 「ゲノムネットワークプロジェクト」の事後評価結果
- 資料 5 - 1 最先端研究開発支援プログラムの加速・強化に関する対象課題及び配分額 (案) 概要
- 資料 5 - 2 最先端研究開発支援プログラムの加速・強化に関する対象課題及び配分額 (案)
- 資料 6 - 1 最先端研究基盤事業に係る事業計画 (概要)
- 資料 6 - 2 最先端研究基盤事業に係る事業計画
- 資料 7 平成21年度科学技術の振興に関する年次報告 (平成 2 2 年版科学技術白書)
- 資料 8 第90回総合科学技術会議議事録 (案)

6 . 議事

【平岡科学技術政策担当副大臣】

それでは、時間となりましたので、総合科学技術会議を開会いたします。

議事に入ります。

来年度予算要求に関する議題として、(1) 及び (2) に入ります。

本議案につきましては、相澤議員より（１）、（２）、まとめて説明していただき、その後（１）について決定をいたしたいと存じます。

それでは、相澤議員、よろしく申し上げます。

【相澤議員】ありがとうございます。

平成23年度は政権交代後、初めての本格的予算編成という重要な年であります。

総合科学技術会議においては、科学・技術関係予算の編成プロセスの改革を推進してまいりました。そういう意味で、平成23年度は予算編成プロセス改革元年だという認識であります。

この取組は、アクション・プランというものを特徴としております。このアクション・プランを策定いたしまして、新成長戦略の実現に貢献する科学・技術の予算を充実させる目論見でございます。

まず、最重点課題を設定いたしました。「グリーン・イノベーションの推進」と「ライフ・イノベーションの推進」の2つであります。

グリーン・イノベーションの推進においては、低炭素、自然共生、循環型社会の実現を目的といたしまして、環境に配慮した質の高い生活を送る「環境・エネルギー大国日本」を目指します。

この中で再生可能エネルギーへの転換、エネルギー供給網の低炭素化、省エネルギー化、社会インフラのグリーン化を推進いたします。

第2のライフ・イノベーションの推進においては、元気にあふれ、いきいきと働き暮らせる「健康大国日本」の構築を目指します。予防医学、革新的診断・治療技術、高齢者、障がい者の科学・技術による自立支援を進めます。

第2に、重点推進課題を4本の柱立てにいたしました。

第1が「基礎研究の抜本的強化」、第2が「科学・技術を担う人財強化」、第3が「課題解決型研究開発の推進」であります。

課題解決型研究開発の推進は、これまでの8重点分野を指定して研究開発を推進するのではなく、我が国が抱えている大きな課題を設定し、その解決に向けて研究開発を推進するものであります。

第4が「イノベーションの創出推進」であります。

これらの重点配分方針によりまして、格段に質の高い予算編成を目指します。こういうことによって、国民の期待にこたえる科学・技術予算を実現する所存であります。

以上が第1の案件でございます。

引き続きまして、第2の案件であります科学・技術重要施策アクション・プランについて報告させていただきます。

科学・技術予算の大きな改革を目指しまして、「アクション・プラン構想」を推進しているところであります。

1枚目をめくっていただきます。アクション・プランはただいま申し上げましたように、科学・技術の予算編成プロセスの大きな変革のために策定されます。この予算編成プロセス改革のねらうところは、これまで概算要求後に優先度判定するどちらかといえば「受動的な仕組み」であったものを「能動的な仕組み」に変換するものであります。

この効果は、まず総合科学技術会議が司令塔機能を発揮し、府省連携を促進するところであります。また、府省連携によって、科学・技術予算のムダの排除と質的充実、さらに科学・技術政策を重点的かつ効率的に展開することによって、迅速に重要課題を解決することが期待されます。

また、総合科学技術会議は国民とともに科学・技術政策をつくり、進めるということを掲げておりまして、この予算編成プロセスの改革においても、パブリックコメントを求めるなど、いろいろな国民の声を生かした形で実現してまいります。

パブリックコメントを実施いたしました結果、859件という、この種の難しいとい

いまいしょうか、専門的な課題については随分多くの意見が寄せられたのではないかと思います。

次をお願いいたします。

先ほど申し上げましたように、アクション・プランにおいては、先行的に2つの「イノベーション」、それから「競争的資金の使用ルール等の統一化」、この3つを取り上げております。まず、グリーン・イノベーションでありますけれども、府省連携を明確にし、それぞれの府省の役割分担を明らかにした上で、グリーン・イノベーションについては、5つの「施策パッケージ」を示しました。

これまでに各府省が進めている内容を相当規模圧縮して、集中特化しております。5つの施策パッケージは、「太陽光発電の飛躍的な性能向上と低コスト化の研究開発」、「木質系バイオマス利用技術の研究開発」、「蓄電池、燃料電池の飛躍的な性能向上と低コスト化の研究開発」、「情報通信技術の活用による低炭素化」及び「地球観測情報を活用した社会インフラのグリーン化」であります。

ライフ・イノベーションにおいては、「施策パッケージ」を3つ設定いたしました。

「ゲノムコホート研究と医療情報の統合による予防法の開発」、「早期診断・治療を可能とする技術、医薬品、機器の開発」、3つ目が「高齢者・障がい者の生活支援技術の開発」であります。

「競争的資金の使用ルール」につきましては、こういう改革によって、研究者が研究により専念できるように、また同じ研究資金から、より多くの、より優れた研究成果を期待しているところであります。

次のページをお願いいたします。

グリーン・イノベーションの施策パッケージの一つでございますが、このように成果目標を2020年時点で何を達成するのかというところで明確に示して、その中にどういう施策が取り込まれるべきなのかということを総合科学技術会議が提示いたしました。しかも、それぞれについてどの省がどういう役割を分担すべきかということまで指定しております。

このようなことで、現在各省との間でやりとりをしながら、概算要求への具体的な反映を目指しているところでございます。

個々については、割愛させていただきます。

以上でございます。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

ありがとうございました。

それでは、本議題について意見交換をお願いいたします。

【本席議員】

いよいよ民主党政権の初めての本格的科学・技術予算をつくられるということで、一言ぜひお願いしたいことがございます。

財政が非常に厳しい折でございますが、科学・技術政策というのは長期的なビジョンでぜひやっていただきたい。いわゆる一律削減というのは非常に科学・技術政策にはなじまないのではないかと。

その具体的な例といたしましては、前政権下で毎年一律1%削減で大学も研究独法もずっと6年間やってきましたが、結局全部がじわじわと沈んでいる。これはやっぱりきちっとした改革、選択、集中をやっていく必要があります。特に2,500億しかない基礎研究、こういったものは、必ずきちっと手当をしていただきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

そのほかに。

白石議員。

【白石議員】

アクション・プランについて、特にこの先ほどの相澤議員の説明の1ページの2のアクション・プランのねらいと効果のこの中の のところに、アクション・プランのねらいというのは、ムダの排除と質的充実というふうにございます。

ムダの排除というのは、もちろん実際に施策パッケージをつくって、現在ずっとヒアリングをやっておりますけれども、重複の整理、ムダの排除ということは、これは当然のこととしてやらなければいけません、それだけですと元気が出ませんので、質的充実ということで、ぜひつけられるところには予算が場合によってはふえると、そういう形の仕組みをぜひ考えていただければということをお願いしたいと思います。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

それでは、中鉢議員。

【中鉢議員】

資源配分方針とアクション・プランというのは、政府の注力ポイントに対する国民と世界へのメッセージ、非常に重要なメッセージになると思います。

今、白石議員からお話があったように、財源が厳しい状況でムダの排除というのは必須でありますけれども、あれもこれもという足し算による重複のムダはもとより、規模感の乏しい過剰な分散のムダというものも避けるべきだろうと思います。ぜひ減った、増えたというアマウントだけの議論に偏らぬよう、本質的なといいますか、選択と集中のプロセスそのものについての十分な説明も添えながら、国民の理解が得られるよう、政府一体となった対応をお願いしたいと思います。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

中川副大臣。

【中川文部科学副大臣】

さきほどの資源配分とアクション・プラン、これを関連させての発言をさせていただきたいと思うんですが、アクション・プランにおいて、この資源配分を前提にして、あるいは成長戦略を前提にして、グリーン及びライフという2つのテーマを絞って、これを重点的に、具体的に予算づけの中で生かしていくということ、これはアクション・プランの中で表現されたことなのですが、もう一方で資源配分のほうで指摘されています重点的に推進すべき課題、一言で言えば基礎研究、人材育成、あるいはそのプラットフォーム、土台をつくっていくという部分の重要性というのがアクション・プランの中では具体的に触れられていないというか、そこが抜けているところなんです。

具体的には、これからの格付けといたしますか、S A B C評価、この中でぜひこの基礎研究に係る部分というのを一つしっかり押さえていただいて、その中で具体的な施策として重要課題の1つというふうなテーマの置き方をぜひお願いを申し上げたいということです。そのことを改めて指摘をさせていただきたいというふうに思います。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

奥村議員。

【奥村議員】

アクション・プランの意義はここに書かれているとおりなんですが、これを一つ技術の流れという側面で見ると、ご案内のように最近の技術はさまざまな知恵を、あるいは要素技術を組み合わせてできるわけです。そういたしますと、従来のそれぞれの府省の得意とする分野、その技術だけではできないので、必然的に府省連携にならざるを得ない、そういう大きな技術の流れに沿ったものでもあるという、そういう意味もございますので、一言つけ加えさせていただきました。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

ありがとうございました。

それでは、お時間も少したっておりますようでございます。

本議案のうち（１）については決定の対象になっておりますけれども、決定をしてよろしいでしょうか。

それでは、本案を決定することとし、総理及び関係大臣あて意見具申することといたします。それでは、次の議題（３）に入ります。

相澤議員より報告をお願いいたしますが、時間が少し限られてますので、どうぞよろしくお願ひします。

【相澤議員】

第４期の科学技術基本計画が来年度からスタートするということで、現在その策定中であります。

その策定のために、６月の基本政策専門調査会において「科学技術基本政策策定の基本方針」が決定されております。これから年末に向けて総理への答申をつくるという形になります。その前段階となりますのが、このスライドと資料の３－１にあります概要でございます。

科学・技術政策が国家戦略の中に明確に位置づけられることが極めて重要であろうかと思ひます。この基本方針では、「科学・技術・イノベーション政策を一体的に推進する」ということを国家戦略として位置づけるということを強く主張してあります。

第２章では「国家戦略の柱としての２大イノベーションの推進」ということで、イノベーション推進を前面に押し出しているところであります。これは新成長戦略のエンジン役として、イノベーションを推進するという位置づけであります。そのためには、グリーン・イノベーション、ライフ・イノベーション全体にわたって、「イノベーション創出を促す新たな仕組み」が必要であるということを目指してあります。

次、お願いいたします。

第３章でございます。これまで８分野を重点分野に指定して推進してまいりました。このたびはそれぞれの分野を推進するという考えから、むしろ課題を解決するために分野を超えて知を集結していくという考え方であります。「国家を支え、新たな強みを生む課題解決型研究開発の推進」と申しますのは、我が国を支え、豊かな国民生活を支えるための課題に取り組んでいこう。分野を超えるべきだということがこの中心的な考え方であります。

４つの柱があります。

「豊かな国民生活の基盤を支える」、これは食料・資源・エネルギーの安定確保等が含まれてあります。

それから、「産業の基盤を支える」ということで、我が国が強みとしているところをさらに新しい芽を伸ばしていくということでもあります。

さらに、「国家の基盤を支える」、これは広い意味での安全保障を重要視しているところでもあります。宇宙、海洋、防災、原子力、情報通信等が入ります。

それから、「課題解決型研究開発のための共通基盤強化」が重要であります。こういうような基盤をきちっと整備すべきであるということでもあります。

次の4章が「我が国の科学・技術基礎体力の抜本的強化」でありまして、先ほど中川副大臣からございましたプラットフォームの部分でございます。

多様な基礎研究を推進することと同時に、世界トップになるという意味での高水準の基礎研究、この両方を推進する必要があります。

それから、人財の問題、それから国際水準の研究環境の形成、それから世界の活力と一体化する国際展開、こういったところがこのプラットフォームに相当するところでございます。

最後の章といたしましては、「科学・技術のシステム改革」。現在研究開発システムの改革を検討しておりますので、この中に明確に位置づけて推進する内容でございます。

さらに、「国民とともに創り進める科学・技術政策」ということで、現在非常に積極的に国民とのコミュニケーションを深めて、政策づくりからその成果を共有するところまでを進めようとしております。

最後のところには「研究開発投資の強化」ということを設けております。新成長戦略に既に提示されておりますが、官民合わせてGDP 4%以上の研究開発投資を実現するということを掲げております。政府開発投資がこの中でどのくらいなのかということは、丸印()というふうにさせていただいておるところでございます。

以上でございます。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

ありがとうございました。

それでは、本議題について意見交換をお願いいたします。

それでは、直嶋大臣から。

【直嶋経済産業大臣】

今の基本計画の策定、基本方針についてなのですが、基本的にはグリーン・イノベーション、

ライフ・イノベーションを最優先課題として研究開発成果の普及、それから国際標準化、制度改革等が盛り込まれておりまして、極めて重要だと思っています。

今後の検討において、今、丸(資料中「政府研究開発投資のGDP比 %」)と書いてある部分のお話でしたが、これも含めてさらに掘り下げた議論をぜひしていただけるようにご期待を申し上げます。意見ではなくて激励でございます。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

それでは、中川副大臣。

【中川文部科学副大臣】

私も同趣旨なのですが、世界のコミュニティの中で日本が非常に縮んできている。あるいは特に事業仕分けのときにちょっとミスリーディングな報道があったものですから、それが非常に今こたえていまして、世界の科学者と議論をしますと必ずそれが出てまいります。それだけに政府の意思として、この対GDP比1%を確保をしていくのだということをしっかり内外に向けて意思表示をしていくということが非常に大事な局面に来ているというふうに思います。その思いを込めて、ひとつ数値化していくということをぜひ一緒に考えていただきたいというふうに思っています。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

大串政務官。

【大串財務大臣政務官】

ご意見をいただきましたものですから、またこの政府研究開発投資のGDP比のところは、長い議論がこれまでもございました。もちろん内容のアップグレードのところも、総合科学技術会議の皆さんとともに今進めていただいて、今回も予算編成方針自体から変えていくということやっていただきました。こういう成果も踏まえながら、ただ総額ありきみたいな形にはならないような形で、よりよいものができるようなところをしっかりと議論させていただきたいと思いますので、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

ちょっとお時間もありませんので、ありがとうございました。

いただいたご意見も踏まえて、引き続き検討を進め、年末へ向けた議論をさせていただきたいと思います。

続いて、議題（４）に入ります。

奥村議員よりご説明をお願いいたします。

【奥村議員】

それでは、資料４－１のポンチ絵をごらんください。

１枚おめくりいただきますと、大規模な研究開発においては、事前評価と事後評価をすることとされておりますが、今日ご説明いたしますのは事後評価の案件でございます。下半分に対象となりましたテーマを掲げてございますが、文部科学省が平成16年から５年間実施したテーマでございます。20年度に終わり、文部科学省において自己評価を行い、その評価結果をいただき、私どものほうの評価専門調査会でさらに評価して、その評価案を本日ご報告するわけでございます。

さらに１枚おめくりいただきますと、私どものほうで取りまとめました事後評価結果の案が右半分に記してございます。

ごらんいただきますように、個別の学術成果については、かなりよい成果が得られておりますが、プロジェクト全体として見たときには、課題間の連携の不足、あるいは知的財産権の確保が不十分であると、いわゆるマネジメントに起因する課題が指摘されてございます。また、文部科学省におきます評価方法についても、ごらんいただくような指摘事項が挙げられてございます。

こういったことを踏まえまして、文部科学省におかれては、今後の大規模研究開発においては、この指摘事項を活用していただきたいというふうに考えてございます。

以上で説明を終わります。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

ありがとうございました。

特にご意見がなければ本案で決定し、文部科学大臣に通知させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、議題（５）に入ります。

本席議員よりご説明をお願いいたします。

【本席議員】

本件は昨年度の補正予算で約1,000億の最先端研究開発支援プログラムを行ったものでございますが、これに本年度予算で追加約100億円の単年度の予算措置がされたものでございます。その追加予算の配分につきまして、有識者議員が中心となりまして、各課題ごとに加速・強化の有効性、それに必要な金額について検討を行いました。その検討結果をさらに科学技術政策担当大臣を含む調整会合において審議しました。本日お手元の資料５－２にございますように、それぞれの課題に一律ではなく、重要度に応じて、また加速効果を考えながら配分したものでございます。

以上につきまして、本会議においてご決定のほどをお願いいたします。

【平岡科学技術政策担当副大臣】

ありがとうございました。

特にご意見がなければ本案で決定し、文部科学大臣に意見具申したいと思いますが、いかがでしょうか。

ありがとうございます。

（６）の配布資料でございますけれども、最先端研究基盤事業に係る事業計画をお手元に資料６として配付しております。

これは平成22年度予算において300億円程度を若手・女性研究者が活躍する研究基盤の強化に充当するものであり、文部科学省から具体的な事業計画について報告されたものでございます。

ここでプレスの入室をお願いいたします。

（報道関係者入室）

【平岡科学技術政策担当副大臣】

それでは、最後に菅総理からご発言いただきたいと思っております。

【菅議長（内閣総理大臣）】

今日は総合科学技術会議、本当にご苦労さまです。

平成23年度概算要求は、新成長戦略を実施する初年度でありまして、この成長戦略を実施するためには、これまでにない選択と集中を実施する必要があると考えております。また、すでに指摘もありましたが、昨年の政権交代からある意味では初めて一からの予算編成ということになりまして、まさに政権交代の真価が問われる予算編成だと思っております。

そういった中で、新成長戦略を実現するためには、その柱であります科学・技術を強力に推進していくことが必要であります。本日報告をいただきましたアクション・プランは、新成長戦略を実現するための予算編成のプロセス改革の第一歩であると、このように受けとめております。今後、本格化する来年度の概算要求においては、関係府省と密接に連携しつつ、総合科学技術会議が科学・技術政策の司令塔として機能を発揮し、施策の重複排除を行っていくことが重要であると、このように期待しております。これによって、科学・技術関係予算においても、重点化、効率化を進めるとともに、本当に効果的なところに予算が配分されるよう、まさに司令塔としての機能を発揮していただくことを期待しております。

今回策定されたアクション・プランに基づく質の高い予算編成に向けて、各関係府省の最大限の努力をあわせてお願いをして、私のあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしく申し上げます。

（報道関係者退室）

【平岡科学技術政策担当副大臣】

ありがとうございました。

以上で会議を終了いたします。

なお、前回の議事録と本日の資料は公表いたします。

ありがとうございました。